

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

9

Sep 2022

No.330



小さな空間に大きな癒しを

榊引支所管内 前田 香織 さん (45)



玄関先に広がるビオトープです!

私がメダカの飼育を始めたのは、二年前に主人の同僚から、当時4歳だった私の息子にどうかと数匹譲って頂いたことがきっかけです。

最初はどうすれば良いかわからず虫かごで飼育し、頻りに水を替えたりしていましたが、すぐに一匹だけになってしまいました。可哀なことをしてしまったという思いと悔しさからメダカ飼育に関する情報をインターネットなどで勉強し、改めて数匹譲って頂きました。

飼育するコツは、必要以上に世話をせず、水草やヌマエビを入れることで水と酸素を良質に保ち、自然に近い環境を作ることだと学びました。この方法で飼育してからあっという間に繁殖に成功し、今では保育園などにお譲りしたり、JA庄内たがわの産直で販売をさせて頂いています。私の育てたメダカを見て、園児たちが笑顔を見せてくれたり、世話をする中でメダカが私に慣れて、寄ってきてくれるのが可愛いです。

今後は、餌や飼育環境を工夫し、メダカの品種ごとに持つ体色をよりきれいな個体に育てていきたいです。

んめ農マルシェで販売もしています!

¥500 (税込)

健康で元気に育ってね!

温海支所管内

わたなべ あきと るき きはる
渡部 明輝人くん(7)・琉輝くん(5)・輝春くん(1)

明輝人くんは、頼れるお兄ちゃん。野菜を切ったり掃除をしたり、家事のお手伝いをしてくれます。

優しい性格の琉輝くんは、輝春くんの面倒を見てくれます。将来の夢は、救急隊員になることです。

少しやんちゃな輝春くんはお兄ちゃんたちが大好き! 滑り台で遊ぶのがマイブームです。



いつも仲良しな三人兄弟!



あいとキッズ

警察官になるのが夢!

ゲームが得意だよ!

パンが大好き!



ファミリーファーム

FAMILY FARM

三川支所管内 須藤 匠さん・栄弘さん・いくさん

農と共に地域に生きる農業を



(匠さん) 私は会社勤めを経て、約10年前に専業農家として就農しました。現在は、私が父から引き継いだ水稲を栽培し、父と母がネギ、パプリカ、シャインマスカットなどを栽培しています。水稲では一部で有機栽培を行っており、カモを水田に放し除草や害虫駆除を行なうマガモ農法を約15年続けています。就農時はわからないことだらけでしたが、父や地域の先輩農家の方々に栽培方法を教えていただき学ぶことができました。現在でも天候によって左右される生育管理が難しく、毎年勉強しています。

マガモによる有機栽培では、有機米を小学校の給食に提供し、有機米について児童らにお話する機会をいただいております。米作りや有機栽培に興味を持つきっかけになってくれたらと願っています。今後は、育ててくれた地域に感謝し農業を通じて恩返しできるよう尽力していきたいと思っております。

SHONOSEI TRY

庄農生トライ

インターンシップでの学びを将来に活かす

ひなた ゆうしん
食料生産科3年 日向 優心さん



私は三川町で水稲の有機栽培に取り組んでいる菅原さんの農場にてインターンシップをさせて頂きました。菅原さんは有機JAS認証を取得しており、化学肥料や農薬に頼らない農業に取り組んでいます。インターンシップでは主に水田の雑草防除を行いました。思った以上に雑草が多く、炎天下の中では大変な仕事でしたが、作業を通して今までいかに除草剤に頼った農業をしていたのが気づくことが出来ました。

私は将来、稲作農家になりたいと考えています。そのために、卒業後は進学し、稲作の栽培についてより詳しく学びたいと考えています。

月山ワイン 秋のはじめに爽やかな白を楽しもう!



新酒2022 今年も仕込みスタート!

同研究所では8月27日、ブドウ「デラウェア」を原料とした新酒ワインの仕込み作業がスタートしました。

今年産デラウェアは、病害虫被害が少なく高い糖度を確保しており、味わい深いワイン造りに期待が高まっています。

新酒ワインは、櫛引地域西荒屋で収穫されたデラウェアを100%使用。集荷されたデラウェアは、専用機械により1日で全て除梗・破碎され、ぶどう果汁へ加工されます。



今後は、発酵・熟成作業を行い、口いっぱい広がるやさしく爽やかな甘さと華やかな香りを感ぜさせる白ワインを目指して仕上げていきます。10月下旬に販売予定!お楽しみに。



櫛引地域西荒屋で栽培し、白ワインに加工されています。250年もの歴史があり、幕末の頃、酒井藩の家老が甲州を取り寄せ自宅に植えていました。ところがブドウは房が垂れ下がることから、武士は武道に励むのが本業、武道(ブドウ)が下がるのは武士道の恥というので、自宅で植えるのをやめ西荒屋の農家に伝授されたのが始まりとされています。甲州ブドウが栽培される北限の土地でもあります。

「甲州」って?



例年様々なワインコンクールで評価を得ている月山ワイン。中でも鶴岡市櫛引地域産のブドウ「甲州」を原料とした「ソレイユ・ルバン 甲州シュール・リー」はジャパンワインチャレンジ2019で金賞、「豊穡神話 甲州」は日本ワインコンクール2018で金賞を受賞しています。月山ワインの白は国内外で魅力高いワインとして注目されています。

日本ワインコンクールで4銘柄が受賞!

2019年度より3年ぶりに開催された日本ワインを対象としたコンクール「日本ワインコンクール2022」で、月山ワイン山ぶどう研究所の4銘柄が入賞しました。今年度のコンクールでは、全国から706点のワインが出品され、さらに108のワイナリーが参加し、ワイン業界の審査員25人が視覚・香り・味わい・ハーモニーなどの各項目を厳正に審査しました。

月山ワイン「ソレイユ・ルバン 甲州シュール・リー2021」が銀賞、「ソレイユ・ルバンセミドライ2020」「ソレイユ・ルバンカベルネソーヴィニヨン2019」が銅賞、「ソレイユ・ルバンヴェルデレー2020」が奨励賞に輝きました。銀賞の甲州シュール・リーはフルーティーな香りとキレの良い酸味、すっきりとした辛口が魅力。受賞したワインは今秋、産直んめ農マルシェなどで販売する予定です。



ソレイユ・ルバン
甲州・シュールリー2021

銀賞

NEW FACE

8月よりワイン醸造を担当する新採職員が2人加わりました!
即戦力としてワイン造りを頑張っています。
ワイン造りは初めての二人ですが、日々現場に出て勉強中です!

ワイン研究員
やまくち こうき
山口 幸希



新酒ワイン
仕込みに挑戦!
大事なワイン造りの
第一歩です。



「山ぶどう原液」の
箱詰め作業中!
商品を丁寧にチェックし
お客様へお届けします。



ワイン研究員
いたがき りょうすけ
板垣 玲祐





庄内柿・作況調査と圃場審査を実施し大玉生産へ

藤島支所庄内柿振興会は8月25日、藤島地域で庄内柿の作況調査と圃場審査を行った。高品質・大玉の果実生産に繋げるため定期的に調査し、圃場審査では、生産者全員が栽培管理の徹底を行うことを目的に毎年実施。同振興会役員約10人が藤島地域の標準木を調査し、肥大状況と着果量を确认后、JA庄内柿生産組織連絡協議会が定めた圃場審査基準表に基づき樹体管理・仕上げ摘果の実施具合などを審査し、管理が不十分な場合には改善を促した。今年産は適切な栽培管理により審査基準を満たしている圃場が多く良好。今後、JAと連携しながら品質の均一化と商品性の向上を図っていく。



梨・収穫前の生育状況を確認

櫛引支所なし部会は8月19日、櫛引地域で和梨「幸水」の圃場6カ所を巡回した。部会役員4人が参加し、収穫を前に生育状況を入念に確認した。今年産は、部会員らの徹底した防除により病害虫の被害はなく、着果数も良好で順調に生育している。同行した県庄内総合支庁農業技術普及課の担当職員は、梨のサンプルを採取し、大きさや糖度、熟度などを調査。果実の状態を良く見て、収穫期を逃さないように注意するよう呼び掛けた。今年産は、8月下旬から収穫が始まり、10月上旬頃まで行われ、主に地場へ向けて出荷する予定。同部会では、26日に目揃え会を開き出荷規格を確認した。



温室メロン・最優秀賞に齋藤禎さん

JA管内で最盛期を迎えている温室メロンの品質向上の意識を高めようと、温室メロン部会が8月22日、三川町のJA青果物集出荷所で品評会を開いた。部会員が出品した7点の中から、庄内町の齋藤禎さんが最優秀賞に輝いた。この日は、県庄内総合支庁農業技術普及課とJA担当職員、産直の担当者が審査員となり、荷姿や果形など5項目を評価した。審査委員長を務めた同課の千葉更索主任専門普及指導員は「基準である糖度14度以上を確保しており、ネットの張りや果形も良好であった。降雨により品質低下が懸念されたが生産者らの適切な栽培管理により高品質に仕上がっている」と講評した。



デラウェア・最優秀賞に齋藤ゆう子さん

ぶどう部会は8月12日、櫛引地域のJA集出荷場でブドウ「デラウェア」の品評会を開き、出品された7点から同地域の齋藤ゆう子さんが最優秀賞に輝いた。受賞したブドウは、産直め農マルシェで特別価格で販売され、庄内産の品質の高さをPRした。この日は、県庄内総合支庁農業技術普及課や全農山形などの関係者5人が審査基準に基づき粒揃いや糖度などの9項目を審査。審査委員長を務めた同課の清野仁課長補佐は「低温の影響で生育の遅れが見受けられていたが、全体的に粒揃いが良く、生産者による灌水・摘房作業なども適正に行われていた。食味も十分に仕上がっている」と講評した。



生産者の声を国政へ

8月18日、山形県総合文化芸術館を主会場とし、各JA会場にてJA山形中央会並びに山形県農政対本部が主催する「食と農と生命を守る山形県JA代表者集会」が開かれた。今回は、実出席とWEB参加により750名規模で行われ、JA庄内たがわの会場には、農政対代議員やJA役職員ら50名が参加した。JA中央会の折原敬一会長は「農業生産資材高騰等の生産者の努力だけでは対応できない現下の状況を踏まえ、生産者が営農継続の意欲が持てるよう、生産現場の声を国会や政府に必ず届けてほしい」と県選出国議員へ訴えた。また、山形県農業協同組合青年組織協議会の佐藤陽輔会長（立川支所）ら生産者・消費者の代表5名が現場の声を訴えた。

集会に先立ち、8月3日からの豪雨被害への支援対策を講じるよう「令和4年8月豪雨による被害対策にかかる緊急要請」を山形県知事に行った。

要請内容

「食と農と生命を守る政策推進に向けた要請」

1. 食料安全保障の強化に向けた大胆な対策の拡充・強化
2. 地域の話し合いによる将来を見据えた活力ある産地づくりの推進
3. 品目別対策等

「令和4年8月豪雨による被害対策にかかる緊急要請」
(山形県知事宛)



伝統農法でおいしい「あつみかぶ」をお届け

温海川中小屋高原赤かぶ組合は8月9日、温海地域で、同地域の在来作物「焼畑あつみかぶ」の栽培行程のスタートとなる火入れ作業を行った。焼畑農法は、斜面となる圃場の草木を火で焼き、灰を肥料にして良質な土壌にすることを目的とし間を置かず播種までの作業を行う。この日は、組合員とその家族約25名で1.1haの圃場で焼畑を行い、炎天下の中で作業する焼畑農法の伝統を守り続けている。忠鉢直大組合長は「今年産は荒天が続き火入れのタイミングが難しかったが、無事に火入れ作業を実施でき良かった」と話した。今後は、10月の収穫に向けて栽培管理を徹底していく。



研修会でトルコギキョウ新規作付け拡大を目指す

営農販売部は8月25日、庄内町でトルコギキョウの新規作付けを促す研修会を開いた。トルコギキョウの作付けに関心を持つ参加者約10人がトルコギキョウ専門部長である池田宏志さんの圃場を視察し、栽培上の利点として、育苗ハウスを活用した栽培が可能ことや品目として市場評価が高く高値での販売が期待できることを学んだ。また、品種の更新頻度が高いため栽培しやすく販売先が求める品種が作られている他、(株)庄内町種苗センターを利用することで育苗作業・管理が軽減されるなど魅力をPRした。参加者は「稲作との複合経営を目指し、安定生産を図っていけたらと思う」と話した。



よいぞうぬりえ

作品展示します! よいぞうぬりえ

よいぞうぬりえ大募集



たくさんのご応募ありがとうございました! 応募作品は各支所貯金窓口に展示させていただきますので、ご家族みんなで見に来てください!

優秀作品は当JAホームページで紹介させていただきますので、予めご了承ください。

作品展示期間

2022年9月12日(月)~10月7日(金)

- 特** 食卓の 胡瓜つくしの 胡瓜揉む
鶴岡市東岩本 高梨 秀子
- 特** 鮎口（評）注連寺や大坊には大きな鮎口があり鳴らすと響きわたる音が遠くまで響く。
鶴岡市越中山 佐藤 照子
- 特** 万緑に 誘はれるまま 行者径
鶴岡市熊出 渡部 巖
- 特** 賑やかに 村人祭り 薬洗心
鶴岡市越中山 菅原しづ子
- 特** 鮎口（評）月山、湯殿山に続く無の行者径は深く奥深い。万緑に誘はれるまま、苦しさを感動が伝わる。
鶴岡市東岩本 小野寺 一
- 特** 鮎口（評）飛鳥の空を舞う鮎口は、鮎口は夜の干しの最盛期。浜に真白きで情景が浮かぶ。
鶴岡市本郷 小野寺 一郎
- 特** 焦げ灰と 枝豆ご飯 香ばしき
庄内町余目 早坂 宗笑
- 特** 青田風 庄内富士の 立ち姿
鶴岡市本郷 小野寺 一郎
- 特** 鮎口（評）月山の麓から鳥海山の麓までは伏々として庄内平野が広がる。鳥海山は、どこから見ても素晴らしい立ち姿である。
鶴岡市越中山 菅原しづ子
- 特** 鮎口（評）一般的に豆飯、豆御飯と言いますが青田豆や蚕豆を炊き込んだものを言う。ただちやん豆を炊き込んだものは枝豆御飯となる。少し焦げると大変おいしい。
庄内町余目 早坂 宗笑

「心の声」10月号投稿のテーマ「あなたが学生時代にハマっていたものは?」

【応募方法】下記の①~③を郵便はがき・Eメールにご記入の上ご投稿ください。①テーマの答え(本紙やホームページ等で掲載致します)②住所・氏名・年齢・電話番号③広報誌の感想、JAへの意見・要望など【あて先】JA庄内たがわ広報情報係 999-7611 鶴岡市上藤島字備中下3-1 E-mail kouhou@ja-shonai.or.jp 【しめきり】令和4年9月30日(金) 当日消印有効 ※投稿頂いた方の個人情報は、目的以外には使用いたしません。



月山ぶどう果汁 2名様

活動紹介

8月の利用者様活動紹介



今できないことができるように、できることが維持・向上できるように専門スタッフと一緒に挑戦してみませんか!

介護のお問い合わせ 総務部 福祉介護課
〒999-7621 鶴岡市長沼字宮前23-1 TEL0235-33-8165
(居宅介護支援(ケアマネジャー)、訪問介護(ホームヘルプ)、通所介護(デイサービス)、福祉用具レンタル・販売)

土日はポイント5倍

産直ぬめ農マルシェ 9・10月イベントのお知らせ

9/17(土)~19(日)祝・21(火)・22(水) 彼岸用切花販売 彼岸用の切花をご用意しております。

9/23(土)~25(日) 対象商品がレジにて **10%割引** **新米フェア** ※一部商品を除く

10/1(土)・2(日) **お米の日** 対象商品レジにて **10%割引!** ※一部商品を除く

JAカードでお買い上げの方は 請求時に**5%割引!**

4月から9月までの営業時間9:00~18:00(定休日:なし) / 10月から3月までの営業時間9:00~17:00(定休日:1/1~3, 1~3月の第2・第4水曜日) 〒997-0824 鶴岡市日枝字小真木原88-1 TEL0235-25-6778 FAX0235-26-7880 E-mail sanchoku@ja-shonai.or.jp

農産物を出荷していただける産直協力会員を随時募集しています! オンラインショップ 産直ぬめ農マルシェ 検索

SNSもチェックしてね!
Twitter @jashonai730
Instagram ja_shonai.marche
LINE ID @498zaito

10月16日は「国消国産の日」!

「国消国産の日」とは JAグループが提唱する「国消国産」とは、「国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する」という考え方で、国連が定めた「世界食糧デー」に合わせ、JA全中が10月16日を「国消国産の日」として制定しました。国民の皆様へ広く食料・農業への理解を深めていただき、農業の応援団になってもらえるよう、「国消国産の日」を含む10月を「国消国産月間」として定め、JAグループを挙げて様々な情報発信をすすめています。

なぜ「国消国産」がたいせつなのでしょう?

感染症パンデミックや国際情勢の急変、気候変動、人口増加などによって、世界的に食料安全保障がクローズアップされており、先進国最低レベルの日本の食糧自給率を高める必要があります。地元の農産物を選んで買物をすると、ほんの少しの行動変化が、日本の食の未来を支える「国消国産」の実現に、そして国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成にもつながると考えています。

「国消国産」をすすめるキャンペーンを展開しています!

秋の大収穫祭 産直ぬめ農マルシェ

期間 10/1(土) ~ 10/31(日)

★「のほり」が目印!

全国約1,500か所のJAファーマーズマーケットで、ポスターのQRコードを読み込んでスタンプGET! 豪華プレゼントに応募できます!

STEP 01 直売所へ行こう!

STEP 02 店内ポスターのQRコードを読み込み、スタンプを貯めよう!

STEP 03 何度も訪れ、貯まったスタンプ数に応じた豪華商品を手に入れよう!

スタンプ1個 14,000名 JAタウンクーポンコード(1,000円分) **¥1,000 COUPON**

スタンプ2個 抽選で総計1,000名様

- Aコース: 250名 お米食べ比べセット
- Bコース: 250名 国産和牛
- Cコース: 250名 季節のフルーツ詰め合わせ
- Dコース: 250名 毎日の食卓をオシャレにする食器



国消国産

「国消国産」とは? JAグループウェブサイト

「心の声」

あなたが夏にやり残したことは？

帰省したら長男にあれも食べさせたい！
これも準備しすぎて、余り食べさせて
やれなかった。夏の終わりに時間差で帰
省するかも！との次男にはしつかり食べ
させてやろうと... S・Nさん【楠引】

60代後半の夏はほぼ予定通り満喫しまし
た。7月は横浜娘宅訪問、8月は孫と映画、
鳥海家族村で帰省した家族とグラウンドゴ
ルフ、お盆は皆でお寺とお墓参り。9月
4日の月山登山が2022年夏の計画最後で
す「ファイト一発！」E・Hさん【新余目】

7月16日～8月28日まで酒田美術館で
平山郁夫さんのシルクロードと奥の細道
が開催され、楽しみにしていたのですが、
なかなか行けず...その中にベルナール・
カトランの大好きな作品もあったことを
知りました。大好きなカトランの作品を
酒田美術館へ見に行けなかった事が一番
悔しいです。 Y・Sさん【楠引】

もっと海に行きたい。 N・Sさん【鶴岡市】

私が今年の夏にやり残した事はBBQで
す。天気が悪かったり、コロナの影響で
会食が中止になったりしてできませんでした。
来年こそはBBQをやりたいです。
 K・Yさん【朝日】

今年の夏は娘一家がコロナになって遊び
に来れませんでした。孫達にも会えずと
ても淋しい夏でした。早くコロナが終わ
ってほしいです。 S・Mさん【新潟県】



鈴木 愛菜さん(24) 藤島支所管内

自然豊かな地元が好きで保育士の仕事をして
います。休日は、車に乗って星や山を見に行き
リフレッシュしています。動物も好きなのでイ
ルカと一緒に泳ぐことが夢です。



庄内たがわ aito

Sep 2022
No.330

発行/庄内たがわ農業協同組合

〒999-7611

山形県鶴岡市上藤島字楠中下3-1

TEL.0235-64-3000

電子メール tagawa@ja-shonai.or.jp

印刷/庄内農村工業農業協同組合連合会



ホームページ



Twitter



Instagram